

アイソスの
回文かるた

ちみんにじょうほうこ
こうかいがいかうこ
うほうよじにん

ち

ちみ
ち

first message from ISOS



*回文 = 上から読んでも下から読んでも同音の文章。

ち

道任辞よ 報広う買害 公開情報に民治

現在、JAB認定が一時停止になっている審査登録機関は3機関ある。品質分野では、財団法人日本自動車研究所審査登録センター（JARI-RB）と財団法人電気安全環境研究所品質認証部（JET-QM）、環境分野では株式会社国際規格審査登録センター（ISC）である。最初にJARIの認定一時停止がJABから発表された時は、さして世間も騒がなかった。これは無理もない。認定の一時停止はJABのホームページに小さく掲示されるだけだし、認定停止を受けた審査登録機関側も、その内容は一般公表せず、自分のクライアント（受審組織）に通知するに留まるからだ。しかし、ISCが認定停止を受けた時は、そうもいかなかった。この審査登録機関は、三重県知事である北川正恭氏が社長で、三重県、愛知県、岐阜県が出資している役所系機関だからである。2001年12月8日、ISCは三重県庁で記者会見を行い、認定の一時停止の内容を公表した。三重県以外では、マスコミもあまり大きく報道しなかったが、地元紙では何度もこのニュースが取り上げられた。そうこうするうちに、「JAB認定の一時停止」は全国区の話になった。「認定の一時停止って、何だ？」という問い合わせが、本誌にも数多く寄せられるようになった。本誌だけでなく、JABにもたぶんこの件でたくさんの問い合わせがあったのだろう、2002年1月9日ようやくJABはホームページ（<http://www.jab.or.jp/>）の「FAQ」のコーナーで「認定の一時停止」の内容を発表した。一方、審査登録機関側のホームページをみると、「認定の一時停止」に関して、ISCは冒頭で認定停止後の活動について発表しているが、JARIやJETは何の発表もなく、ISO9000の登録や認定に関する項目は、クリックできなかったり、工事中になったままである（2002.1.23現在）。情報公開という面では、ISCはまだ良い方なのかもしれない。

JABの認定基準は、世界共通の認定ガイドラインに基づいて作成されたものである。あくまで最低限守らなければならない基準なので、これを満たしても、まだ問題がある機関は存在している。たとえば、審査登録機関の役員の中には、コンサルティング機関の役員を兼務している人たちがいる。こういう人たちは辞めるべきだ。ペーパー上、当該の審査登録機関とコンサルティング機関とが審査業務について直接利害関係がないことを証明すれば、JABの認定基準はクリアできる。しかし、ミエミエではないか。あるいは多額の脱税をしている審査登録機関とか・・・。

確定拠出年金制度や銀行のペイオフと同様、審査登録制度にも自己責任が問われている。組織は、審査登録機関を自分の責任でしっかりと選択しなければならないのである。ある日突然、自分たちが審査を受けた機関が認定停止になり、その登録証に認定ロゴマークを付けることができなくなっても、誰も助けてはくれない。